

京都府立加悦谷高等学校（全日制課程）

丹後の文化・歴史探究

1 丹後ちりめんの理解を深める

(1) 対象

1年生 普通科 78名

(2) 実施日

令和元年7月12日(金)

(3) 活動のねらい

フィールドワークや外部講師との出会いや学びをとおして、地域の魅力の発見や課題点を見つけ、解決策を模索する。これらの活動をとおして、地元への理解を深めることをねらいとした。

(4) 活動内容

与謝野町は人口1,000人あたりの織物事業所数で日本一である。与謝野町の主産業である丹後ちりめんについての多角的に理解を深めるため、ちりめん街道、織物技能訓練センターならびに株式会社ワタマサの3箇所を巡るフィールドワークを行った。

ちりめん街道では、丹後ちりめんの歴史を深めることを目的とし、与謝野町観光協会にガイドをしてもらいながら、ちりめん街道を巡った。織物技能訓練センターでは、織物に携わる職人や織物の構造を知ることが目的とし、自動織機と手織りの体験を行った。株式会社ワタマサでは、事業として丹後ちりめんを扱う経営者の考えに触れてもらうことを目的に、代表取締役社長であり、本校の卒業生にも当たる渡邊正輝氏に会社として取り組んでいることなどを講話いただいた。



(5) 成果と課題

与謝野町に住んでいる生徒であっても丹後ちりめんやちりめん街道のことを詳しく知っている生徒は少なく、身内が機織をしていますが、どういうものか知らなかった生徒が多かったが、フィールドワークをとおして、与謝野町にも誇れるものがあることを知るきっかけとなった。また、実際に現場に出向いたり、丹後ちりめんに関わる方々の話を聞いたりすることとおして、丹後ちりめんの理解を深めるだけでなく、与謝野町が抱える課題に関しても気づききっかけとなった。

(6) 生徒の感想

- ・ 初めて知ることが多かったけど、今日学んだ与謝野の良いところをお母さんなどたくさんの人に伝えていけるといいなと思いました。実際に体験をしたり観たりすることが出来てすごく貴重な時間をすごすことができました。自分がどんなことがしたいのか分からないけど、なんかいろいろと候補になりました。
- ・ 今日一日丹後ちりめんについてたくさん学ばせていただきましたが、丹後ちりめんがどれだけすごいものなのか分かったし、だからこそ、ちりめんや与謝野町のことを誇りに思い、この町を大切にしていきたいと思いと共にちりめんが世界にも興味をもってもらえたらいいなと思いました。
- ・ 今回のことを機にちりめん街道や機織りのことを深く考えるきっかけになって良かったです。自分の身の周りの文化や伝統を知ることでもできたし、逆に課題も見つけることが出来、それに対して、どうしていくかななどを真剣に考えなおすこともできたので良かったです。

(7) 参考(外部指導者名、協力機関・団体、教材・参考文献など)

ア 与謝野町観光協会 会長青木様、伊達様、足立様

イ 織物技能訓練センター 技師 尾関様、茂籠様

ウ 株式会社ワタマサ 代表取締役社長 渡邊正輝様

エ 与謝野町教育委員会 社会教育課

2 丹後地域の戦争遺跡フィールドワーク

(1) 対象

2年生 普通科 84名

(2) 実施日

令和2年2月4日(火)、6日(木)、10日(月) ※クラス単位で実施した。

(3) 活動のねらい

地元地域の残る戦争遺跡、慰霊碑等でのフィールドワークを通して、30年以上続いている与謝野町とアベリスツイスとの交流のきっかけを探り、地元地域の伝統文化に対する知識・理解、平和への思いを深める。



(4) 活動内容

京都府京丹後市の大宮町と峰山町にまたがる一帯には戦時中、峯山海軍航空隊が存在していた。そのため、航空隊の遺構がいくつか存在している。一方、与謝野町には、大江山ニッケル鉱山外国人労働者慰霊碑がある。同碑は、第2次世界大戦時、連合軍捕虜として大江山ニッケル鉱山で強制労働させられた英国のフランク・エバンス氏が、この地に眠る当時の同僚を偲ぶとともに、二度と再び戦火の起こらないよう平和を祈願して建立されたものである。今回はこの2箇所のフィールドワークを地歴の授業の時間を活用して行った。



峰山海軍航空隊の遺構では、海軍飛行場滑走路の跡地、戦闘機が格納されていた旧格納庫、燃料庫跡、爆薬庫跡や当時使用されていた海軍のマークの入ったマンホールを見て回り、建物の構造を知ることによって、当時の状況に思いを馳せた。大



江山ニッケル鉱山外国人労働者慰霊碑では、慰霊碑が建てられた背景を聞きながら慰霊碑に書かれた言葉を読んだり、エバンス氏に思いを馳せたりした。

(5) 成果と課題

実際に現地に行くことで、生徒は、話を聞くだけでは理解できない当時の戦争の雰囲気を感じ取っていた。

課題として、今回の跡地巡りは本校教員が誘導を行ったが、当時のことを知っていたり、話を聞いたことがあったりする現地の方々に案内いただくようにスケジュール調整をすればよかった。

(6) 生徒の感想

- ・ いつも通っているところにこんなにすごい物が建っていてとてもびっくりした。物置場のようところに昔は戦闘機を置いていたなんて、どこをどう見てもわからなかった。エバンスさんはとても仲間思いの良い人だったことも知れた。この学習で知れたことをまだ知らない人に伝えていと思った。
- ・ よく通っていたあの道や、よく子どもの頃に遊びに行っていた公園に太平洋戦争などの戦いの際の遺跡や慰霊碑があることに驚きました。このフィールドワークに行って初めて知ったことだったのでいろんな人に教えてあげようと思いました。また、この戦争遺跡が今もこうして大切に守られていることを凄いことだと思いました。

3 きもの着付け教室

(1) 対象

全校生徒 247名（希望者を募り開催する）

(2) 実施日

第1回 令和元年6月19日(水)

第2回 令和元年10月30日(水)

第3回 令和2年2月8日(土)

(3) 活動のねらい

様々な種類の着物を自分たちで着て、着物の文化に触れることで、丹後地域の伝統産業である丹後ちりめんへの理解を深めることをねらいとした。また、第2回では、与謝野町の国際交流で来校したアベリスツイスの高校生も参加し、海外への発信もねらいとした。

(4) 活動内容

様々な種類の着物を着てもらうことから、以下のとおり、年に3回のきもの着付け教室をPTAの協力を得て開催した。

第1回 浴衣

第2回 小紋・名古屋帯(カジュアルな着物)

第3回 礼服用着物

講師には、社団法人茶道文化振興会着付部 みやび流 和装道 正教授 長島美代乃様ならびに入院院 菊衣流 きもの着付教室 京都支部長 教授 藤田美千代様の2名にお越しいただいた。また、着付サポートとして両講師の教室の生徒の方々とPTA役員の方々にご協力

いただいた。

参加生徒は、講師の方々にアドバイスをいただきながら、時には互いに教えあいながら着付を進めていって帯締めまですべて自分たちで着付を行った。

第2回では、与謝野町の国際交流で来校したアベリスツイスの高校生との交流も行った。



(5) 成果と課題

普段着ることのない着物を着ることで、地元産業の伝統文化に触れている実感を持つことができた。

着物をきっかけに丹後ちりめんの歴史や丹後ちりめんまつわる

丹後の歴史を知るきっかけになった。

着物を着ることで、普段とは違う自分を見ること

ことができ、着物の良さを知ることができる一方で、いろんな工程を経るため、「着物を着るのは大変」、「自分で着ることはできない」という印象を与えたが、その経験を今後の地元産業を考えるきっかけとしてほしい。



(6) 生徒の感想

- ・ きものを着ることが初めてだったので、とても楽しみにしていました。実際着てみて、思っていたよりも苦しかったです。一から丁寧に着方を教えてもらい、とても良い経験をすることができました。普段見ることのない自分を見ることができ嬉しかったです。次、何かの行事できものをきる時は、今回学んだことを活かしたら良いなと思いました。
- ・ 前回は浴衣だったので、その感覚で着れるのかな～と軽く考えていましたが、きものは浴衣とちがって着るものと巻くものがたくさんあって、すごく苦戦しました。でも着るとすごくきれいで参加してよかったなと思いました。また外国の方達と交流もでき、片言だけど英語で会話できて良かったです。

(7) 参考(外部指導者名、協力機関・団体、教材・参考文献など)

ア 社団法人茶道文化振興会着付部 みやび流 和装道 正教授 長島美代乃様ならびに生徒の皆様

イ 入学院 菊衣流 きもの着付教室 京都支部長 教授 藤田美千代様ならびに生徒の皆様

ウ PTA 役員の皆様

以上